

第2回協議会だより 《東方部》

令和7年10月2日（木）15:00～16:40 郡山市役所 正庁

【実践発表】 郡山市久保田保育所



久保田保育所では、一人一人の姿や思いをしっかり受けとめ、子どもの気付きに応えながら「やってみたい」という気持ちを引き出す環境づくりを心掛けています。昨年度の年長児が楽しんでいた遊びを「自分たちもやってみたい」という子どもたちの希望をいかし、家庭から持ち寄った廃材を使った遊びへと広がっていきました。子どもたちは友達と何度も制作を繰り返す中で発想が豊かになり、遊びが発展していったようです。好奇心が芽生え、創造性も大きく膨らんでいきました。今回の廃材遊びを通して、子どもたちの成長や遊びからの学びを感じる事ができ、創造する力が身についてきたように思います。先生方は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」も総合的に育まれており「やってみたい」という気持ちこそが学びへの第一歩であるという思いを大切にし、日々の保育を展開しています。

【協議会】

テーマ 幼保小の相互理解と円滑な接続の在り方について



① 実践発表について

- ・廃材遊びから自主的に学びにつなげる姿勢や主体性を大切にする保育を心がけていました。子どもの思いを大切にしたいという先生方の思いが伝わってきました
- ・大人が子どもの発言をどう拾うかが重要で、子どもの思いに寄り添った活動の進め方で、満足感や達成感を味わえていると思います。

② 自発的な活動や遊びを通して育まれる資質・能力について

- ・一人ひとりの子どもにとって10の姿の中のどこに視点を置くべきなのか、その子どもからの発信を待つという意識も必要であるということがわかりました。

③ 気になる子の支援について

- ・5歳児健診を実施することで、保護者や保育士がそれぞれの特性に気付くきっかけになると思うのでぜひ実施してほしいと感じました。

《参加者からのアンケート》

- ・各保育所での主体性を重視したり子どもたちに寄り添ったりする姿勢について、とても勉強になりました。
- ・今後気になる子の支援として、積極的に視覚教材を取り入れていきたいと思いました。